

清水の子



『未来を創造する
清水の子の育成』

- ◇学びを広げる子
- ◇思いやりあふれる子
- ◇たくましさみなぎる子

TEL 33-7285

Eメール simizu-es1@hokkaido.school.ed.jp
第 10 号 平成 30 年 1 月 22 日発行

当たり前前を当たり前にする

校長 一谷 浩之

新年を迎えました。学校では学年の締めくくりの 3 学期の開始です。この大切な学期を迎えるにあたり、子ども達にちょっと辛口な要求をしたいと思います。君達はなぜ学ぶのか、何を学ぶのかということです。

開けたら閉める。
出したらしまう。
落ちたら拾う…。



最近こんな事が出来る子が少なくなった気がします。当たり前前を当たり前にするって、結構難しいことなんです。「当たり前」っていったい何でしょう。誰かが「当たり前」って思っている、他の人は思っていないかもしれません。

そうです。当たり前を知るためには「常識」を身につけなくてはなりません。広く社会を知り、知識を増やすことが大切です。ただ知識を増やすだけではいけません。知性と教養を身につけなくてはなりません。

知性と教養とは知識の量ではなく、人の心をわかろうとする力のことです。すなわち想像力のことなんです。想像力はその人間が育った環境の中で身につけていくものです。例えば本をいっぱい読んで豊かな感性を育てたり、友達に優しくされたり、友達を思いやったりする経験の中で相手の気持ちを推し量ろうとすることなのです。

これらの力は人間の本能ではありません。人間の本能はきわめて動物的なものが多いです。相手の気持ちをわかろうとする想像力は、人間が生活の中で努力して克ち取っていくものなのです。努力して想像力を身につけなくてはなりません。

開けたら閉める。
出したらしまう。
落ちたら拾う…。
そして、

困っている人がいたら助ける。
泣いている人がいたら声をかける。
ひとりぼっちの人がいたら…



あなたという人間は、何を見て、何を感じ、何をやるだろう。
どうか、親の立場・地域の立場でこの事を咀嚼し子ども達に伝えてあげてください。